医療・環境保全・農村開発

PIHS 助産所運営安定のカギ、医療保険加入推進事業
今年度新規加入は 40 名になりました

昨年 6 月に開始した医療保険加入推進事業、3 月末の事業終了を控えて、PIHS から成果中間報告として、加入者リストが届きました。12 月までの加入者は、出産を終えた母親が 34 名、妊婦が 6 名計 40 名です。当初 3 か月の保険料は事業で負担しますが、継続は母親たちの保険に対する意識次第です。PIHS は、助産所にとっても、また、乳幼児の病気対応にも必要な保険の重要性を今後とも各種研修で触れる予定にしています。

ジェネラルサントス市内タンブラー・バランガイでのセミナー。
講師は助産所マネージャ・サラリンさん

助産所竣工 2 周年を祝いました
— 2019 年 12 月 10 日 —

2017 年 4 月に、今井記念助成金を受けて建設支援を開始した助産所は、2019 年 12 月 10 日竣工 2 周年を祝いました。

母子保健や医療保険加入をテーマの研修（写真上）のほか、竣工の日と同じく、沿岸警備隊の協力で、歯科無料診療も実施し、妊産婦だけでなく地域住民が受診しました。（写真下）

（撮影:長瀬アガさん）

先住者ビラーン民族のほか、モロ民族、2 年前のマラウイ避難民などの居住地域＜ムジャ＞プロジェクト
— 平賀基金によるヤギ飼育、水道敷設から始まり、昨年はコミュニティスクール建設も支援 —

左：:コミュニティスクール
奥：ヤギ小屋　　右端：水道

1 年ほど前、平賀基金でコミュニティ保健ボランティアの活動資金づくりにと、ムジャ地区のヤギ飼育とポンプ式水道建設を実施し、昨年 11 月には、幼稚園や母親教室の拠点コミュニティスクール建設も支援しました。マラウイ避難民には帰還する家族もいて、子どもの数は当初の 19 名から 10 名へと減りました。一方、新規入園希望もあり、4 月以降対応の予定です。

12 月に開催のコミュニティスクールの感謝祭。白いスカーフがナプサさん。　（撮影：アガさん）

10 月末のミンダナオ地震被災者に対し、PIHS を通じて支援しました

10 月 29 日及びその余震による北コタバト州の地震被災者救援活動に参加の PIHS に対し、私たちもメール連絡網を通じて協力を要請、食糧や医薬品代 2 万ペソ（約 4 万円）を支援しました。

マキララ市救援センターでのナプサさん

コロナダル市によるビラーン民族支援政策とボルールのモデル農場事業

＜市の支援１＞　ボルールにクリスマス飾り発注

12 月のはじめ、元 COWHED マネージャーのジェマさんからコロナダル市役所前の巨大なツリーの写真とともに、2,500 枚の星形飾りは、ボルール住民の手作りという情報をいただきました。クリスマス前に現金収入をという市長の計らいだったようで、材料と簡単な作り方研修費も市が負担したそうです。

＜市の支援２＞　市長が奨励ビーズ製 ID ホルダー

暮れには、ボニファシオから、市長による役所や学校等でのビラーンのビーズ細工 ID ホルダーの使用奨励という情報も届きました。続報を待ちたいと思います。

アガさんを案内するボニファシオ

すでに 2 回小規模アグロフォレストリー事業を実施したボルールには、ココナッツが実り、ゴム樹液採取が近い地区があります。

「助成金などで新規に大量に苗木を購入することなく、住民の組織化を進め、過去の事業に学ぶ研修で受益者を増やすように」という長瀬アガさん（HANDS ボランティアスタッフ）の助言で 4 月に始まった事業を、12 月、アガさん自身がモニターしました。

帰国後の報告によると、事業指導者ボニファシオは市のビラーン民族支援事業担当として忙しく、種子から育てたコーヒー苗畑はあったが、アグロフォレストリーの広がりは確認できなかったということでした。事業で支援の研修小屋は、勉強会だけではなく、住民組織 TAD の情報交換の場として十分活用されているということですから、今後に期待したいと思います。